



さとがき

<http://www.satogaki-e.kofu-ymn.ed.jp/> 里垣小ホームページ

里垣小学校だより
平成29年5月1日
甲府市立里垣小学校
校長 柏木 精一

風薫五月を迎えて

「すべては子ども
のために」

甲府盆地を囲む山々は若葉が芽吹き、木々を揺らす風も爽やかな季節を迎えております。新学期が始まり1ヶ月が経ちました。落ち着いて学習に取り組む真剣な眼差し、気持ちよさそうに校庭を走り回る元気な姿、係や委員会の仕事に精を出す様子があちこちに見られます。

保護者の皆様には、過日の授業参観、PTA総会、更には学年総会へのご出席、ありがとうございました。今年のPTA活動も、順調な滑り出しができました。また、4月下旬から始まった家庭訪問も、皆様のご協力を得て、有意義な訪問となっております。

今月は、6年生は修学旅行、1～4年生は春の遠足に出かけます。5年生は、林間学校の準備となります。風薫る五月に、美しい自然を感じながら、それぞれの見学場所で、どんな経験をするのでしょうか。小さな草花を発見するのでしょうか。友達と一杯楽しい思い出を作りたいと願っています。

PTA活動に期待～活動を通して親の交流を～

PTA総会に140名ほどの保護者の皆様のご参加をいただき、活動計画案、予算案及び役員承認がなされ、本年度のPTA活動がスタートしました。今後、奉仕作業、教育講演会、学年ごとの親子活動など、工夫された有意義な活動となることを期待しております。

PTA活動は、保護者同士が仲良くなることが目的の一つであります。子どもが仲良くなることはもちろんですが、親も仲良くなることも大切なことです。

何かと多忙の中での参加となりますが、できれば楽しく活動していただければ幸いです。



愛育会の活動に感謝しながら

4月27日に開催された「里垣地区愛育会定期総会」に参加させていただきました。

愛育会は、子どもたちが健やかに生まれ育ち、病気・障害があっても、高齢になっても、住み慣れた地域で安心して暮らしてゆくことを目的として、活動されている住民の皆様の組織です。里垣地区愛育会は、市内で一番早く結成され多方面で活発に活動をされ、今年50周年を迎えるとお聞きしました。愛育会の皆様の活動に感謝しながら、地域の皆様に子どもたちは見守り支えられていることをこれからも伝えていきたいと感じました。

「学年だより」のタイトルに込めた思い

今後も、子どもの活動の様子や教師の願いなどを伝えて参ります。お楽しみに！

1年生 「きらり」
ひとり一人が「きらり」と輝くように

2年生 「レインボー」
虹のようにカラフルに個々が輝くように

3年生 「3さんSUN」
お互いを認め合い、伸び伸びと成長するように

4年生 「Power Up!」
友達を大切に集団として更に高まるように

5年生 「全カスマイル41」
41名が全力で一歩一歩成長するように

6年生 「Dreams Come True」
目標に向かって実行し、全校を牽引するように

学力の三要素と集団生活

P T A 総会の校長挨拶から

学力の三要素を樹木にたとえて説明します。

一つ目は、葉に当たる部分である「知識・理解・技能」です。葉が周囲の環境や四季の中で成長し、木全体に必要な養分を生成するように、子どもたちは教師の説明、様々な本や資料、友だちの意見など様々なものから知識や技能を習得していきます。

二つ目は、幹に当たる部分である「思考力・判断力・表現力」です。幹は、緩やかではありますが、着実に太くなっていきます。子ども達も「知識や技能」を活用して「考える力・表現する力」を除々ではありますが獲得していきます。

三つ目は、木を支える根に当たる部分である「関心・意欲・態度」です。葉（知識・理解・技能）や幹（思考力・判断力・表現力）を伸ばすためには、太く丈夫な根が必要なのです。良い根を作ることで、立派な幹も葉も茂るはずですが、学ぶ意欲が満ちあふれたときこそが、大きく成長する時期であります。植物に詳しい方が申すには、丈夫な根を育てるには、根の張りを慎重に見極め、根の少し先に水や肥料をあげるのだそうです。すると根は自分の力でぐっと伸びていくそうです。関心や意欲の育成も同じであり、子どもの実態を把握し、関心や意欲をそそる手だてが大切です。

以上のように、葉と幹と根は、一体として木が成り立っているように、学力の三要素もそれらが有機的に結び合うことによって統一体としての学力となるのです。

また、木が小さいうちは倒れないように添え木をします。一番丈夫な組み方は、バランスよく組まれた三本の添え木が良いと言われていています。学力（子どもの成長）を大きく育てる三本の添え木は、家庭・学校・地域ということになります。三者が木である子どもの成長のために 相互に連携を図り、しっかりと支えていくことが重要です。

一方、木は、自然界では森や林を作り集団で育ちます。1本で生えている木は、台風や洪水で折れてしまいます。子どもも同じように集団の中で育ちます。学校は、知識や考え方を身に付ける場であると同時に、集団生活を通して社会性・人間性を高める場でもあります。

集団生活は、楽しいことばかりではありません。時には自分の思い通りに事が進まず、不愉快に思うことや、辛いこともあるかもしれません。そういうもめ事があるのが集団生活です。もめ事を経験するたびに、子どもたちは、人と人との関係の中で、お互いに折り合いをつけることを学んでいきます。

